

結合型・橋渡し型・連結型社会関係資本がポピュリスト急進右翼政党支持に与える影響—英国における 2014 年欧州議会議員選挙を事例として—

法学研究科 法学政治学専攻
博士後期課程 2 年 楊 建陽

1. はじめに

本研究は、西ヨーロッパにおけるポピュリズムの台頭に関する需要側の研究に位置づけられる。これまで、ポピュリズムを支持する有権者を研究する研究者たちの説明は、大きく分けて、経済要因重視と文化要因重視の二つに分類される。経済的不満を強調する研究と社会文化的不満を強調する研究との間にギャップが存在してきたが、近年の研究は経済要因と文化要因の相互作用に焦点を当てている。しかし、経済要因と文化要因の研究課題以外に、市民社会の役割に焦点を当てた先行研究は少ない。さらに、市民社会の役割に言及する数少ない限られた研究においては、実証的な証拠は互いに矛盾した結果を示している。そこで本研究は、社会関係資本がポピュリスト急進右翼政党支持に与える影響を探ることを研究課題とする。

2. 理論

本研究は、Mudde (2017)の理念的アプローチのポピュリズム定義を採用する。これは、善良な「人民」と邪悪な「エリート」の間の二元対立をより強調した定義である。一方、社会関係資本の理論も時代とともに発展してきた。まず、「信頼」、「規範」および「ネットワーク」を特徴とする Putnam (1993)の社会関係資本の定義は、政治学での有用な理論として一世を風靡することとなった。しかし、この比較的単一で包括的な理論は、他の学者から批判もされている。長い間理論的な発展を続けてきた結果、研究者は、グループ内の同質性を強調する密接な結びつきを特徴とする結合型社会関係資本、比較的異質であるが、共通の利益のある結びつきを持つ橋渡し型社会関係資本、および個人またはグループを横断する垂直性のある連結型社会関係資本という三つのタイプの社会関係資本を受け入れてきた。本研究の仮説として、社会関係資本を構成する三つのサブタイプの特徴が互いに異なることを考慮すると、社会関係資本の下位類型のそれぞれがポピュリスト急進右翼政党に対する支持・不支持に対して異なる方向で作用すると主張する。

3. データと分析

本研究では、実証分析に関わる一連の作業を実施する。まず、従属変数として、2014年欧州議会選挙の英国独立党の地方自治体レベルの得票率を設定する。次に、独立変数として、社会関係資本の三つのサブタイプの指標を特定する。結合型社会関係資本を表すため、民族的多様性、教育レベル、収入、雇用と言語能力の指標を使用する。橋渡し型社会関係資本を表すため、宗教施設、医療施設、教育施設と公共住宅の指標を使用する。連結型社会関係資本を表すため、政府関係者とボランティア活動関係の施設の指標を使用する。最後、失業給付受給率、週給の平均、製造業従事者比率と、65歳以上人口比率を統制変数として投入したモデルにより回帰モデルの頑健性チェックを行う。

独立変数と従属変数の指標を特定した上で、実証分析に入る。まず、主成分分析を通じて、社会関係資本の三つの下位類型が独立して存在するという理論的推測を検証する。その後、本研究では重回帰モデルを構築し、回帰分析の結果を確認しながら、連結型社会関係資本の指標の構成を再考する。ボランティア活動関連の施設の指標を捨て、地方自治体の政府関係者のみを指標として特定する。再度重回帰分析を行い、本研究の仮説が検証できる。すなわち、結合型社会関係資本はポピュリスト急進右翼政党支持に対してプラスの影響を持ち、橋渡し型社会関係資本と連結型社会関係資本はポピュリスト急進右翼政党支持に対してマイナスの影響を持つ。

しかし、本研究はそこにとどまらず、先行研究における経済的・文化的要因が社会関係資本に影響を与える可能性を考慮し、次の作業では、交互作用の検証を追加的に行う。本研究では、2011年と2001年の英国国勢調査の10年間にわたる雇用状況と民族的多様性の変化から作成された指標によって経済的・文化的要因を捉え、交互作用の検証を行う。結果として、社会関係資本、とりわけ結合型社会関係資本と、経済要因を表す雇用状況の変化と文化要因を表す民族的多様性の変化の間には、交互作用があることが確認できる。

4. 考察

本研究が残した課題も多い。まず、英国の地方自治体レベルのデータが限られているため、多くの指標は国勢調査からしか取ることができなかった。そして、コミュニティを中心とする人と人との関係である社会関係資本を考慮すると、個人レベルと地域レベルにまたがったマルチレベル分析とネットワーク分析が次のステップの研究として必要であることを論じ、結論とする。

5. 参考文献

Mudde, C. (2017). An ideational approach. In C. R. Kaltwasser, P. Taggart, P. O. Espejo & P. Ostiguy (Eds.), *The Oxford handbook of populism* (pp. 27-47).

Oxford University Press.

Putnam, Robert, 1993, *Making Democracy Work: Civic Traditions in Modern Italy*,
NJ: Princeton University Press. (河田潤一訳, 2001, 『哲学する民主主義-伝統と改
革の市民的構造』 NTT 出版株式会社。)